

新しい指標の検討について（案）

1. 「子ども・子育て応援プラン」で新規に設定された目標と検討会委員より寄せられた新しい指標の提案について、中間評価研究会で検討した。

検討の視点

- 既存の指標ではかれないか。
- ベースラインがあって、継続的にモニタリングできるか。
- 目標とする数字が高いことが良いことか悪いことかが明確か。
- 当該領域での重要性が高いか。

2. 検討の結果、新しい指標として掲げるものと具体的な推進方策として取り入れることを考慮するものに分けた。

(1) 新しい指標として掲げることを考慮するもの

「健康日本21」関連課題

- ・ 食育の取組を推進している市町村の割合 100%
(自治体調査)
 - ・ 7歳児での肥満児の割合 減少傾向
(学校保健統計)
 - ・ 1日1時間以上運動している小学生の割合 増加傾向
(体力・運動能力調査)
- * 幼児の体力（幼児期の運動習慣の形成）についてを包含

(2) 具体的な推進方策として取り入れることを考慮するもの

- 別紙については、推進方策として取り入れることを考慮して検討する。
- さらに、子どもの生活習慣等追加すべき内容があれば、同様に検討する。

(参考) 『21世紀の母子保健の推進について（健やか親子21)』 P44～48

具体的な取組方策として取り入れることを考慮するもの

- ・ 専用の病棟を持つ児童精神科部門の病院数
- ・ 安易な妊娠中絶の防止（薬物服用による妊娠中絶を含む）
- ・ 「いいお産」ができる環境を評価する 41 項目及び TBE (Transforming Birthing Experience) 尺度の達成度による「いいお産」の普及
- ・ 産科医、助産師が 1 年間に扱う分娩数
- ・ 産科医師数、助産師数の地域格差及び活動実態の継続的な把握
- ・ 妊娠中の風疹の罹患の可能性等から、母子感染関連ウイルスの抗体検査・保有率の把握
- ・ 不妊治療妊娠後の産後うつ病の発生率
- ・ 妊娠中の口腔健診実施率
- ・ 幼児期・学童期のう歯予防
- ・ 産後から 1 年ぐらいの女性の健康診断の普及
- ・ 保健師がネットワークのコーディネーター
- ・ 地域の子育て支援ネットワークに小児科医・保健師等が参加
- ・ 子育てや妻の健康に関する父親の認識理解を高める
- ・ 乳幼児を持つ父母のための健康・家族計画の認識・理解を高める
- ・ 食育と併せて子育て生活応援
- ・ 育児休業の取得率（男女別）、労働局から事業主への指導
- ・ 生後 4 ヶ月までの全乳児の状況の把握
- ・ 外部機関と連携した性感染症教育を含む思春期性教育の実施
- ・ 子どもの生活習慣の改善
（早寝早起き、テレビ視聴時間、朝食摂取、など）
- ・ 超低出生体重児、極低出生体重児、低出生体重児への継続的サポートを含む産褥家庭訪問の実施割合
- ・ 家族が 1 日 1 回は皆揃って楽しく食事をする割合